

紙版 ハコブネ×ブックス 秋の増刊号

ハコブネ×ブックスは児童文学作品・YA作品を未来に語り継ぐ web サイトです。

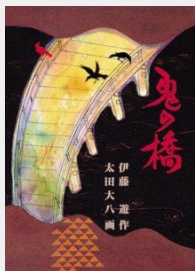
特集

ジャパニーズファンタジー 見参

ウラ面も アリマス



日本を舞台にして、実在する地名や歴史上の人物たちが登場するジャパニーズファンタジー。ここに描かれる情景や文化風俗には日本の風情が醸しだされ、魅惑に満ちています。花鳥風月や虫の音、物語を彩る自然の風物は色濃く日本の美と情緒を意識させます。また物語に通底する**死生観**や**自然崇拜**や**信仰心**は、我々の意識の根幹にあるスピリチュアルなものです。奇想のファンタジーであり、荒唐無稽な架空の物語でありながら、不思議な共感があり、その世界をこく身近に感じられる。なによりも、その**独自のギミック**が魅力的です。キツネと**鬼**と**天狗**と**河童**と**神々**が跋扈し、**呪法**や**忍術**が飛び交う。剣と魔法の海外ファンタジーとは趣の違う独特の世界観に酔わされるのです。今回は特に**人気の高い**ジャパニーズファンタジー作品を集めてみました。シリーズ作品も多く、**読み応えのある傑作揃い**です。是非、読破されることをお勧めします。



鬼の橋

作者 伊藤遊
出版社 福音館書店
発行 1998年10月
ISBN 978-4834015713

第3回児童文学ファンタジー大賞

review



平安遷都から数十年がたった京都の都。後に名を遺す**小野篁**(おののたかむら)は、貴族官吏の息子である十二歳の少年です。妹を事故で亡くし失意に沈む彼は、ふいに**黄泉の回廊**に迷い込み、二匹の**鬼**に襲われます。彼を救ったのは、数年前に亡くなった、**征夷大將軍、坂上田村麻呂**。死んでもなお、黄泉の世界から鬼が都に這い出ないよう鎮護の任にあたっていたのです。やがて篁は**京の五条橋**で、**田村麻呂**に片方の角を切り落とされた鬼、**非天丸**と出会います。鬼の心を半分失った**非天丸**には、人間の心が芽生えはじめました。非天丸が庇護する孤児の少女、**阿古那**と親しくなった篁は、非天丸に不審を抱きつつ、二人との関係を深めていきます。**凄惨なりアル**と、冥府つながる**ファンタジー空間**を併せ持つ京の都を背景に、繊細な少年が成長する姿が描かれます。



月神の統べる森で

四部作+外伝

作者 たつみや章
出版社 講談社
発行 1998年12月
ISBN 978-4062094481

第37回野間児童文芸賞

review



縄文時代が終わわり、弥生時代が始まる**端境期**。神々を畏怖し、自然の恵みに感謝して**狩猟**や**採集**で暮らすムラの人々を脅かしたのは、海の向こうからきた**農耕**を行う人々です。若きムラの長、アテルイは、従兄弟の美しい巫者シクイルケを伴い、海からきた人々のクニに談判に赴きますが、攻撃を受け、その包囲網をからくも突破します。力を使い尽くし、洞穴に身を潜めた二人に訪れたのは、森の少年、ポイシユマとの**運命の出会い**でした。シクイルケはポイシユマが「星の息子」と呼ばれる尊い**カムイ(神)**の面影を宿していることに気づきます。人々が心安らかな暮らしを取り戻すために「星の息子」は明星として光を放つべき宿命を負っています。**大きな時代の変化**を迎え、神ならぬ人はどう生きていくべきか。ポイシユマの生き様を通して、世界の鳴動を体感できます。



空色勾玉

三部作

作者 荻原規子
出版社 福武書店
発行 1988年8月
ISBN 978-4828813301
第22回日本児童文学者協会新人賞



現在は、徳間書店より刊行されています。

review



ISBN 978-4198605391

神の御子がまだ**半神**として人間界に力を及ぼしていた時代。高光輝(たかひかるかぐ)の**大御神**を崇拝する村に育った十五歳の娘、**狭也(さや)**は、祭りの日、奇妙な楽人たちから、自分が高光輝と敵対する**閻御津波(へくらみつは)**の**大御神**に仕えた高貴な**狭由良姫の生まれかわり**だと告げられます。それは、神々の戦いの均衡を破る**大蛇(おろち)**の**剣**の守り手であることを意味しました。狭也の正体を知らながら、采女として輝の宮への参内を求め、高光輝の御子、月代王(つきしろ)のおおきみ)。その好意と思惑を計りかね、さらに輝の宮に隠された秘密を知ってしまった狭也は、運命の大きな転変を迎えます。**光と闇**を司る神々の対立とその**愛憎**の果てにある新しい世界。**不死の神**が人の世を統べる時代から**死すべき運命を持つ人間の時代**へと移り変わる乱世をファンタジーの中に創造した壮大な物語です。



狐笛のかなた

作者 上橋菜穂子
出版社 理論社
発行 2003年11月
ISBN 978-4652077344

第42回野間児童文芸賞

review



武士が台頭し始めた時代。国境の水源地を巡って憎しみを募らせる、隣り合う**春名ノ国**と**湯来ノ国**。同じ大公の配下であり、表向き争うことを封じられた両国は、**呪法による攻防**を繰り返していました。湯来ノ国の呪術者に使役されている**靈狐**、野火は、その窮地を春名ノ国に住む娘、小夜に救われます。呪術者であった母親のことを知らぬまま、山里で密かに育てられた小夜は、人の心の声を聞き、**この世と彼の世(あらい)**を行き来できる力を持っています。小夜は、その力を利用して両国の闘いに巻き込まれていきます。小夜を一途に想う野火は、主人を裏切り、命を賭して、小夜を守ろうとします。圧倒的な力を持つ敵の力の前に絶望しながら、それでも活路を見いだそうとする小夜と野火。**闘いの無常**と、人が抱く**儂い望み**に人間の業を考えさせられる物語です。

紙版「ハコブネ×ブックス」秋の増刊号 2021年10月15日発行

●発行人 きむらともお

事務系会社員。趣味で児童文学紹介サイト ハコブネ×ブックス(非営利)を運営しています。日本児童文学者協会第6回児童文学評論新人賞佳作他、受賞。



@tomoostretch



日高見戦記

作者 小野裕康
出版社 理論社
発行 2000年4月
ISBN 978-4652071809

review



奥州の反乱軍、日高見国を征伐するため大將軍に任じられ進軍する、八幡太郎こと源義家。坂東に住む少年、滝丸は、兵を募る義家の征討軍に志願しますが、まだ十二歳であることで断られます。それでも軍に随行することは許され、義家側近の陰陽師である道摩の牛車の世話任せられます。中を見たら死ぬ、と脅されている牛車には「鬼」が匿われており、道摩はその力を得て妖術を使うといひます。その道摩をして死者に口をさかせ、先見の力で戦術をたてる義家。この「鬼」こそが、征討軍の秘密兵器でした。しかし、水害に巻き込まれ大破した牛車には、鬼ならぬものが隠されていました。慈悲の心を持ち、人々を惹きつける義家は、同時に冷酷でもあります。その多面性に滝丸は疑念を抱きます。物語の中の善悪が揺らいでいく予感が次第に大きくなり、この世界の深淵が見え始める展開が実に魅力的です。



白狐魔記 源平の風

全七巻

作者 齊藤洋
出版社 偕成社
発行 1996年2月
ISBN 978-4037442101

review



後に白狐魔丸（しらこまる）と名乗る理知的で好奇心の強いキツネは、人間に強い関心があり、里村の周辺で暮らすうちに人間の言葉を聞き覚えていました。とくにキツネが人間を化かすという僧侶の話に惹かれ、白駒山で修業すれば神通力を得られるという話に興味を覚えます。ある時、狼師に追われ、迷い込んだ白駒山で仙人に命を救われたキツネは、そのまま弟子入りすることになります。やがて人間に化けられるようになったキツネ、白狐魔丸は、広い世界を見るために旅に出ます。時に源平合戦が終りを迎え、源義経は、兄頼朝に追われて、逃避行を続けていました。白狐魔丸は義経一行と遭遇し、行動をともしません。何か、人間は馬鹿げた戦などをするのか。冷静な観察者である白狐魔丸もまた、人間との関わりの中で、理不尽な感情に焦がされます。長い時間に渡り人間の戦いの歴史を見続ける白狐魔丸の物語の序章です。



風の陰陽師

全四巻

作者 三田村信行
出版社 ポプラ社
発行 2007年9月
ISBN 978-4591099063

review



後世に高名を伝えられる陰陽師、安倍晴明。幼い日の晴明に母はおらず、貴族である父の手で育てられ、平安京の屋敷で安寧に暮らしていましたが、彼が母の真実を知ったのは、病に伏した父の今際の際。父を訪ねてきた妖狐である母の姿を見た晴明は、どうにか再び会いたいと思い、父の死後、信太の森に住む母を訪ねます。しかし、半人半妖でありキツネとして生きられない晴明は母と別れ、その帰路に、強い法力を持つ放浪の法師、智徳と出会い弟子となります。やがて力をつけた晴明は、陰陽道の新しい道を開け、智徳に諭され、師匠と別れ、都に戻ります。呪法を用いた陰謀が渦巻く都で、その力を発揮し、悪の野望を打ち砕くものの、やがて大切な人々を失っていく晴明。繰り返される別離に、漂泊の思いを抱えた晴明が、ようやく心の居場所を見つけたまでの長い旅路を見届ける物語です。



忍剣花百姫伝

全七巻

作者 越水利江子
出版社 ポプラ社
発行 2005年11月
ISBN 978-4591086896

review



戦国乱世。五鬼と呼ばれる忍びの城のひとつ、白鳥城が何者かの手によって一夜にして滅ぼされます。同じく五鬼の八剣城の城主から、その調査を命じられた、四天の秘術に通じた八忍剣という忍びたち。しかし、その留守に八剣城も襲撃され壊滅します。行方不明となった八剣城主の娘、四歳の花百姫は盗賊に拾われ、捨て丸という名の男の子として育てられます。やがて十四歳となった捨て丸が自分の出自を知った時、八剣城を滅ぼした魔王との闘いが始まります。父から受け継いだ天竜剣で剣術の修業に励み、四天の秘術、水天の術を身につけた花百姫は、散り散りとなった八忍剣の力を集め魔王に對抗します。時間や空間を自在に操る術により、過去や未来を行き来しながら、魔王と対峙する花百姫。魔王は何故、人間を滅ぼそうとするのか。この善と悪の相剋は、人間存在の真実を捉え、人間が抱くべき本懐と深い情愛を見せつけるのです。



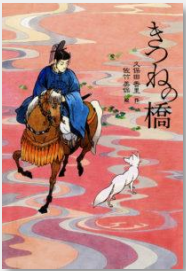
天邪鬼な皇子と唐の黒猫

作者 渡辺仙州
出版社 ポプラ社
発行 2020年1月
ISBN 978-4591164921

review



遣唐使が廃止される十年前。まだ日本と唐の往来が盛んであった頃。蘇州で人間に捕まり、日本へと向かう商船に無理矢理乗せられた黒猫は、猫の勢力を束ね、人語を解し、兵法にも通じる「霸王」とあだ名された大物でした。たどり着いた日本では、その毛並みを役人に見染められた黒猫は、今上天皇に献上され、内裏で飼われることになりました。気ままにクールな黒猫も、都の難しい政治情勢の中で争いに巻き込まれる人間たちを眺めていると、つい世話を焼いてしまいます。後に宇多天皇となる今生天皇の子息である定省（さだみ）は、嫌々ながら譲り受けたこの黒猫との微妙な協力関係によって危機を乗り越えていきます。宇多天皇が日記「寛平御記」に書き残した飼猫とのエピソードが、歴史的事件の裏に、人語を解する唐からきた黒猫の活躍があったという奇想の物語として結実しました。



きつねの橋

続編あり

作者 久保田香里
出版社 偕成社
発行 2019年9月
ISBN 978-4035405603

review



平安時代中期。貴族社会が最も華やかだった時代。故郷を離れ、京都で貴人の郎等として仕える少年、平貞道は、武功によって身をたてようと野心を抱いていました。主人である源頼光の数多い家臣の中で群を抜くには、目立つ働きをしなければなりません。高陽川の橋の上に見れる人を化かすというキツネを退治することを請け負い、苦戦しながらもキツネを捕らえ屋敷に連れ帰った貞道は、思いもよらず、この訳ありのキツネに感謝されます。葉月と名乗るキツネと貞道との不思議な友情がここから始まります。貞道は、時に葉月に助けられ武名を上げていきます。一方、葉月が大切に守るもののために貞道が一肌脱ぐことにもなります。人間と妖力を持つキツネの緊張感のあるパートナーシップと信頼関係が絶妙の間で魅せる物語。後に、源頼光家臣の四天王の一人として、大江山の鬼退治で勇名を馳せる平貞道の若き日々を描いた冒険譚です。

第67回産経児童出版文化賞・J・R賞